

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2472100334
法人名	ジール株式会社
事業所名	グループホーム いなべ
所在地 (電話番号)	いなべ市員弁町畑新田五軒屋367-1 (電話) 0594-84-0080
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 19 年 7 月 27 日(金)

【情報提供票より】 (H19年7月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 12 月 20 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6人, 非常勤 2人, 常勤換算 4.6人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	59,000 円~
敷 金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / (無)
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 700円			

(4) 利用者の概要(7 月 10 日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名
要介護3	名	要介護4	3 名
要介護5	2 名	要支援2	名
年齢	平均 85.8 歳	最低 81 歳	最高 91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山本総合病院 古田医院 ういち歯科
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人全体としては有料老人ホームやショートステイ施設、グループホームと多数の介護施設を運営しており、本グループホームも設立5年経った実績・経験の豊富な事業所である。幹線自動車道路から少し離れた静かな田園地帯にあり、広い玄関口には季節の花がいっぱい咲いており、南面の庭は広い芝生で、静かでゆったりとした生活を感じさせる平屋の一軒家である。内部は木の匂いがいっぱいの造りで、利用者や職員が集まる共有空間は食堂と台所が一体になっており、食事の準備や調理の時間が楽しいコミュニケーションの時間になっている。運営推進会議も始まり、地域との連携・交流もできつつあり、管理者はじめ職員のがんばりで、地域にしっかり根を下ろしてきている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回調査の改善課題であった項目は、玄関の施錠以外は、いずれも改善されていた。施錠については解決が難しいので、運営推進会議のテーマとして皆さんの意見を聞く等、模索を続けている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者はじめ職員は自己評価の意義、目的をよく理解し、全員で評価に取り組んでおり、具体的な改善にも取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議を1回開催しており、2回目は8月に予定されている。報告内容やテーマ選定に苦労しており、事業所としての活動や実態を基にした身近なテーマで、2ヶ月に1回の開催を目標にさせていただきたい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ご意見箱を置いたり、家族の面会時に意見を吸い上げる努力をしているが、家族の意見は少ないので、アンケートの利用等で意見を引き出す検討もお願いしたい。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入はしているものの、重度の人が多くイベント的な行事への参加が難しい。日常的に近隣の人と気軽に付き合える関係づくりを積極的にお願いしたい。</p>

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	笑顔で安心して落ち着いた生活が出来るように「笑顔と信頼」を理念として玄関入り口に掲げており、日々の暮らしをサポートしている。	○	利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、「地域との関係性」が重視されるようになってきているので、地域密着型サービスの役割を加味した具体的なイメージが抱ける理念としてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員が理念の「笑顔と信頼」を共有しており、利用者一人一人に毎日声掛けするところから心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として、自治会にも加入し地域の催物にも出掛けたいが、利用者の重度化で参加できる人数が少ないのが悩みである。	○	催物に出掛けることだけが地域との交流ではなく、近所の方との普段の日常的な付き合いも大切であり、積極的な働きかけを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義、目的を全職員が理解しているが、時間の関係で自己評価も項目を分担して記入している。	○	評価を事業所全体のケアに活かすことが大切であり、評価の一連の過程を職員全員で取組まれることを期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3月に第1回の会議を開催し、2回目が8月に予定しているが、会議のテーマに苦慮している。	○	運営推進会議は事業所の実情やケアサービスの取組状況の報告ばかりでなく、参加メンバーからの質問や意見や要望が気軽に出るようなテーマづくりもされ、双方向的な会議となるよう配慮されることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市や包括支援センター主催の研修会等に参加し、市の担当者との連携も出来つつある。	○	事業所は地域の中でも認知症ケアの拠点であるので、それを生かした地域貢献や事業を行っていく上での課題解決にも行政の理解や支援を必要とすることが多く、積極的な行政との連携をお願いしたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会も多く、面会時に状況報告をしているし、毎月の金銭関係の報告に合わせて、日々の暮らし振りの様子を知らせる手紙を家族に送っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的には家族の面会時の会話の中から意見の吸い上げをしているし、年1回の家族会や「苦情箱」も設置している。また運営推進会議の席での家族意見の吸い上げも行っている。	○	努力はしているが家族からの意見が少ない。例えば家族会や運営推進会議欠席のときは、アンケート等であらかじめ意見をいただく等の検討もお願いしたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所として利用者と職員の馴染みの関係づくりを重視しており、やむを得ず離職者が出た場合は家族には知らせるが利用者には知らせず「いつの間にか姿が見えなくなった」というように利用者のショックを少なくする努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県社協やグループホーム連絡協議会の研修にも参加しており、研修を受ける機会は職員平等に確保されているし、受講後の報告もカンファレンス会議で行っている。	○	研修に参加することがマンネリにならないように、時には初心に戻って勉強しなおす計画もあり、期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種の研修会での情報交換や交流から、協力関係の取り組みをしている。	○	包括支援センターが中に入っている施設間交流が検討されており、事業所として積極的な参加を考えている。ぜひ表面的な情報交換だけの関係でなく、お互いに困ったときに助け合える関係づくりを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族の相談から本人の見学、場合によっては体験入居も可能な仕組みになっており、本人の安心と納得を大切に支援(シームレスケア)を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に暮らすうちにお互いに相手の思いが分かるようになり、職員の方がいたわってもらったり、励ましてもらったり、教えてもらったりする関係が出来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の関わり合いの中で、一人ひとりの思いや意向を把握しようと努力している。	○	職員は出来るだけ利用者全員に話しかけるように努力しており、自分から話しをしない利用者の意向把握には特に関心を払っている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は利用者一人ひとりを担当する体制をとっており、月1回の会議で職員全員で意見を出し合い、家族の意見も取り入れて介護計画書を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態の変化のあるなしにかかわらず、毎月3人づつ3ヶ月に1回はチェックできるモニタリングシートがあり、職員全員で介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の体調に応じ、家族と相談しながら対応しているし、花見やハイキング、買物等その時々々の要望に応じ柔軟に対応している。	○	事業所は認知症についてはプロ的存在であり、事業所の持つ人・物という資源を活用するという「事業所としての多機能性」を活かした支援を検討されることを期待する。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者全員が事業所の協力医をかかりつけ医としており、日々の変化には即応できる態勢にある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた支援について、利用者本人や家族と前向きに検討している。	○	家族の希望もあり、終末期へ向けての支援体制を出来るだけ早く整えられるよう期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人のプライバシーを傷つけてしまわないよう一人ひとりに応じた対応をしているし、個人情報については利用者や家族が入ってこない事務室に管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のたまかなスケジュールはあるが、「今日は何しよう？」と何をすることも利用者各自のペースに合わせている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買物、調理は職員がしているが、簡単な下ごしらえや配膳、片付けはできる人が手伝っており、みんなで食事を楽しんでいる。	○	重度化しても見守りや支えがあれば能力を発揮できることが沢山あるもので、それが張り合いや楽しみにつながっていくと考えられている。利用者のやってみたいという気持ちを引き出すような職員の声掛けを期待する。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	普段お風呂は午後が多いが、希望があれば毎日でも入れる。	○	湯船が深いので介助職員の腰を痛めることが危惧されている。湯船の底上げ等の工夫を早急にされることを期待する。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	特に全員に役割分担はないが、一部のできる人には洗濯物たたみ等役割分担がある。楽しみごとの外出も多く、近所の喫茶店や散歩、季節の花見など気分転換も兼ねての支援に努力している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には散歩やドライブに出掛け、利用者・職員双方にとっての気分転換、季節を感じる機会づくりをしている。	○	出来るだけ外出の機会を多くしたい考えであり、天気がよければ毎日でもと検討している。ぜひ実現してほしい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員全員で玄関の鍵をかけない方向で検討したが、徘徊で出て行く方がおられるので安全のために施錠している。	○	玄関口が建物の構造上、職員や利用者の共有スペースからは「死角」になっている。以前から施錠については問題視され検討されているが、良い解決策がない。次回の運営推進会議に提案し、万一の場合の連絡体制も含め検討していただきたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年2回の避難訓練や消火訓練をしている。	○	年2回種々な設定で訓練をされているが、いずれも昼間であり、職員も多数勤務している時間帯である。災害はいつ起こるかかわらず、特に夜間の災害時には職員の数も少なく、地域の協力が不可欠であり、地域と連携の下の訓練も検討されることを希望する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士にカロリー計算してもらっており、栄養バランスには気配りしているし、水分摂取量も確認している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間である食堂と調理場が一体になっており、調理をする職員と話しながら時間を過ごすことができるし、たたみコーナーもある。テレビの音も程ほどで天窓からの日差しも柔らかくであり、居心地のよい空間づくりがされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド以外は自宅で使っていた馴染みのものを持ち込んでいるし、竹炭を置いたり自作のカレンダーをつけたりと、各自が自分の部屋づくりをしている。		